

ハンドボール 戦評用紙

大会	全国高校総体県予選			性別	男子	
日時	令和	4年	6月	18日	(土)	準決勝
会場	浦和駒場体育館			THROW-OFF	14 : 30 ~	

審判	羽角 健二	後藤 拓
----	-------	------

チーム名	total		total	チーム名	
農大三	29	12	—	23	浦和実業
		17	—	19	
		—			
		—			
		7mTC			
			42		

戦評

先に決勝進出を決めた浦和学院への挑戦権を獲得するのは、第二シードの浦和実業か、第三シードの農大三高のどちらになるか。順当に駒を進めてきた二校が激突する。先制点は浦和実業14番松浦。左サイドシュートが鮮やかに決まる。すぐさま農大三も、獲得した7mスローを3番三上がしっかりと決める。一線でDFラインを敷く農大三に対し、浦和実業はいわゆる1-5DFで守る。9番小山が1人前線に出て常にプレッシャーを与える。そのシステムが功を奏し、7番玄内、10番佐藤などの速攻が景気よく決まる。浦和実業の攻撃は非常にテンポが早く、そしてシュート決定率が高い。確実に点数を重ね、3~4点差を作り出す。流れを掴まれたくない農大三も13番小林のサイドシュートで食い下がる。しかし、前半17分頃に農大三に痛恨の退場者が出てしまう。そのチャンスを見逃さない浦和実業が更に点差を広げる。農大三は4番室伏が豪快なステップシュートを叩き込むが、それで止まる浦和実業ではなく、前半終了時には11点差をつける。悲願の決勝進出が遠のく農大三だが、キーパー1番和原のセーブから4番室伏のカットイン、3番三上のカットイン、11番麻生の右サイドシュート、10番杉山のステップシュートなど、総力戦で追い上げる。しかし、浦和実業は取られた分だけ取り返す上に、3番木下がロングシュートと速攻の得点などで、またさらに突き放す。前半つけられた点差が重くのしかかる農大三も、5番柳川が体を張った右サイドシュートを決めるが、もはや浦和実業の流れには一分の揺らぎも起こらない。粛々と点数を重ねていき、結果的には危なげなく勝利をものにした。

戦評記入者

高橋 凜太郎